



# 木に触れることで育まれるもの。

木とふれあい、木に学び、木と生きる「木育」にスタッフ一丸で取り組む(株)岩崎木材工芸。  
「林業×木工」という独自の強みを活かし、森林の魅力を伝える取り組みに迫ります。

神川小 5年生 皆倉 陸玖 くん (神川新町)

「プロセッサの操作を褒められた」と、林業体験学習を振り返り笑顔で答えてくれた皆倉陸玖くんは3台の高性能林業機械の操作を体験。参加した神川小の児童13名は感想を綴ったお礼の手紙も届けました。



→林業機械の操作体験は大人気。乗ってみたい機械を選び、真剣な眼差しで説明に耳を傾けていました。

(株)岩崎木材工芸 林業部 加島 伸 さん (宿利原)

昨年、愛知県名古屋市中から1ターンで錦江町に移住した加島さん。林業機械体験ではチェーンソーで立木の伐倒を披露しました。「子どもたちが林業に興味を持ってきて嬉しい。つぎは、実際に山で働く機械も見せてあげたい」と力を込めます。宿利原地区在住の28歳。



←加島さんは元大工の経験を活かし、倉庫内に木工体験ができる施設を建築中。



(株)岩崎木材工芸 錦江町神川 3033

昭和49年創業。国有林を中心に木材搬出や造林、植林を行う林業部のほか、木工部では鹿児島県の伝統工芸品に指定される樹齢数千年といわれる屋久杉を使った家具の製造販売も行っています。



(株)岩崎木材工芸 木工部 岩崎 理恵 チーフ

子どもが木とふれあい、木に学び、木と生きる取り組み「木育」に加え、林業体験を融合させて未来を担う子どもたちへ森林や環境の大切さを伝えたいと活動に力を込めます。



梅雨の中休みとなった先月25日、林業機械のエンジン音と子どもたちの賑やかな声が響いていました。この日は、岩崎木材工芸木工部の岩崎理恵チーフが初めて企画した林業体験学習に、神川小5年生の児童13名と、法輪保育園の年長児5名が参加。木に触れる機会を提供することで、森林の循環が持つ大切な機能や林業を知ってほしいとスタッフ総動員で準備を進めてきました。

まずは理恵さんが林業の仕事や森林が持つ機能、必要性について講話。授業で林業を習っていると話す5年生からは多くの質問が飛び交いました。「なにが一番大変？」との質問に「林業も機械化が進んだけど植林は今でも1本ずつ手作業。木が小さいうちの下草刈りは炎天下で日陰もないからとても大変です。それでも森林を育てるためには欠かせない大切な仕事。伐ったら植えて次の世代につなぐことが私たちの使命だから」と答え、林業の大変さに限らずやりがいや魅力も伝えました。

次代を担う子どもたちに伝える「森林の循環に欠かせない「木育」

ここからは先は林業部の出番と大迫力の高性能林業機械が勢ぞろい。黄色いヘルメット姿で重機の前に列を作る子どもたちは、目を輝かせながら順番を待ちました。スタッフの手ほどきを受け、真剣な眼差しで重機を操る子どもたち。その堂々とした姿に林業の未来は明るいと思われ、林業部の宮ヶ原さんは、「次は山で体験を」と意気込みます。

今年の秋にはデジタル技術を用いて家具などを作る、デジタルファブリケーション機械も導入予定と続ける理恵さん。「自分でデザインし、最新技術と地域資源が融合して目の前で形になる。木に興味を持ち、触れる機会が増えることは森林を守りたいと願う意識につながるはず」と、小さな種をまき始めた理恵さんの目には、大きく力強く成長した子どもたちの姿が映っていました。